

いわて復興だより

がんばろう！岩手 つなごろう！岩手

三陸復興

第 69 号

平成 26 年 8 月 15 日号

復興に向けて歩み続ける岩手県の今を紹介します

平成 23 年 3 月 11 日に発生した東日本大震災津波。発災以来、全国そして海外からも多くの温かい励ましや御支援をいただいております。心から感謝申し上げます、この「つながり」を大切にしていきたいと思っております。

岩手県の暑い夏も終わりに近づき、夜には涼しい風が吹く今日この頃。

復興に向けて歩み続ける岩手の今を紹介します。

「横浜南部市場夏祭り～岩手県DAY～」開催！

神奈川県・横浜

8月2日（土）～3日（日）の期間で、横浜南部市場敷地内において、横浜南部市場共栄会と神奈川新聞社共催による被災3県にスポットを当てた夏祭りが開催されました。夏、秋、春の開催が予定されており、今回の夏祭りは「岩手県」がメインの第1弾です。

南部市場共栄会では、家庭のトイレトペーパーやティッシュペーパーを持ち寄る「1ロール運動」や「さんま焼き」で被災地支援を行ってきましたが、復興が進み物資面の不安が解消されてきたこともあり、支援から連携をということで今回の祭りを特別企画したそうです。

岩手県の食品や物産、観光PRをするブースの出展以外に、達増知事による講演では「復興事業はこれからが本番」と復興状況を説明しました。講演後は各ブースを回り、出

展への感謝を伝えました。

会場は、野外ステージでのスチールパンの演奏がBGMのように流れていて、とても賑やかな雰囲気でした。来場者の女性にインタビューしたところ「賑やかで見ているだけで楽しい。私もボランティアで岩手県に行ったことがあり愛着がある。また、行きたい。」と語ってくれました。ボランティアで被災地に行ったという方が来場されていることに、支援の輪を感じます。

また、大船渡産の「さんま焼き」10,000匹が振舞われ、34.5℃という猛暑の中にも関わらず、長蛇の列ができ盛況でした。

無料で振舞われた大船渡産の「さんま焼き」



大槌町の「ホタテ焼き」の販売



知事責任編集漫画「コミックいわて」の販売も(中央：達増知事)



岩手県ブースでの観光PR



夏祭り会場となった横浜南部市場

復興の現場見学会「復興探検ツアー」が開催されました

岩泉町・田野畑村

8月7日（木）、岩泉町、田野畑村で復興の現場見学会「復興探検ツアー」（主催：岩手県）が開催されました。

この見学会は、岩泉・田野畑地区の震災復興の状況を住民に理解してもらうことを目的に行われたもので、当日は、小学生8名を含む宮古・下閉伊地区の21名が参加。岩泉町小本駅周辺、小本港、北山崎観光船、島の越漁港、島の越駅前広場、机浜番屋群など6ヶ所の復興の現場を見学しました。

小本港（岩泉町）

小本港は、地震により港全体が40～50cmの地盤沈下を起こすと共に、津波により防波堤（450m）も破壊されました。防波堤は、本年の秋頃を完成目標として復旧工事が進められており、参加者は復旧工事の様子を見学しました。



「小本港」見学の様子

北山崎観光船（田野畑村）

7月26日より、新たに「北山崎断崖クルーズ」と称して運航を再開。参加者は実際に観光船「SUN RIKU GO（さんりく号）」に乗船し、北山崎の雄大な景色を見学しました。

また、「北山崎断崖クルーズ」では、震災津波の被害状況や三陸地域の歴史を学ぶことができます。



「北山崎断崖クルーズ」を体験する参加者

机浜番屋群（田野畑村）

震災前は、ワカメやコンブの乾燥場や観光客が漁師生活を体験（番屋料理など）できる観光スポットでしたが、震災津波で25棟全てが流失しました。現在、23棟を復活させるべく工事が進められており、参加者は、その様子を見学しました。



「机浜番屋群」見学の様子

いわて復興応援団(員)大募集中！

知って、買って、食べて、行って応援！

登録無料



首都圏にお住まいの方を対象に、応援団員（個人）と応援団（法人及び団体）の登録を募集しています。登録者には岩手県の復興の取り組みや観光・物産・首都圏でのイベント情報などをお届けします。

詳しくは岩手県東京事務所ホームページをご覧ください。

いわて復興応援団

検索

「盛岡さんさ踊り」に応援職員の自治体ご当地キャラ登場

盛岡市

8月1日(金)～4日(月)の日程で開催された「盛岡さんさ踊り」初日のパレードで、岩手県へ職員を派遣している自治体の「ご当地キャラ」が登場しました。総勢14自治体から集まった16体の「ご当地キャラ」は、県庁正面玄関前で達増知事や一般来場者の方々と記念撮影を行った後、県庁職員チームの先頭に立って行進し、パレードを盛り上げました。

この取組は、全国・世界からの支援に対して感謝の気持ちを表すとともに、県内外に応援職員の活動をアピールし、併せて震災記憶を風化させない機運を醸成すること目的として行われています。

沿道でパレードを観覧していた人の中には、「ご当地キャラ」の名前を叫んで声援を送る人もおり、「ご当地キャラ」達はこれに応えるように手を振り、来場者を楽しませました。



ご当地キャラと記念撮影する達増知事
平泉PRキャラ(ケロ平)も参加(二列目中央)



ご当地キャラを撮影する来場者

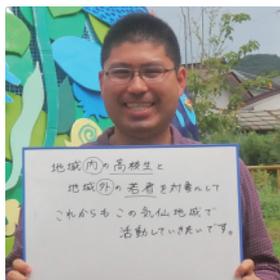


全国より集まった応援職員の自治体のご当地キャラ

被災地・三陸の復興へ向け、多くの若者が情熱を注いでいます。連載「未来のさんりくびと」では、毎号、復興への熱い想いを秘めた若者を紹介していきます。第23回目は、齊藤 健祐さんを紹介します。

未来の さんりく びと

「一般社団法人 SAVE TAKATA」
齊藤 健祐
(さいとう けんすけ) さん



齊藤さんからのひと言：
地域内の高校生と、地域外の若者を対象にして、これからも、この気仙地域で活動していきたいです。

るワークショップへの参加を促すなど、高校生のキャリア教育をサポートしています。

この街を訪れた若者が、住んでみたいと思うようなまちづくりを

「被災された状況によって、復興の定義も様々だと思えます。自宅を再建した時であったり、商業施設ができた時であったり、また、鉄道などのインフラが整備された時であったりと、復興を感じる場面もいろいろだと思います。」と語る齊藤さん。

これからの復興について齊藤さんは「陸前高田市に来て2年余りですが、当時に比べて街並みが変わってきた印象はあります。実際に嵩上げも本格化してきて、段々と街ができていくと思えますが、震災前に戻すというより、若者が集まるような街にならないと街は発展していかないと思います。地元の高校生や、この街を訪れた都会の若者たちが、実際に住んでみたいという街にしていきたい。」とこれからの陸前高田市への想いを語りました。

PROFILE

群馬県出身。
大学時代、岩手県で過ごす。卒業後、関東のIT関連の会社に就職。
2012年夏、いわて復興応援隊に応募し、同年10月より「一般社団法人 SAVE TAKATA」に派遣されIT関連の事業に携わり、現在に至る。

次の担い手を育てたい

震災後、ボランティアとして被災地を訪れた齊藤さんは、一時的なものでなく、現地で生活をしながら復興に関わりたいという想いから「いわて復興応援隊」に応募し、現在は、「SAVE TAKATA」で活動しています。

「次の担い手を育てたい」と考える齊藤さんは、前職のIT関連の経験を活かし、地元の高中生を対象にITの授業を行ったり、まちづくりに関す

岩手県の被害状況

平成26年7月31日現在

- ▶人的被害 死者(直接死): 4,672名 行方不明者: 1,132名
- ▶建物被害(住家のみ、全半壊) 25,716棟

被害状況等の詳細

義援金・寄付金の募集等

[いわて防災情報ポータル](#)

[検索](#)

皆様のご支援、ありがとうございます

平成26年6月30日現在

- ▶義援金受付状況 約181億4,860万円(89,415件)
- ▶寄付金受付状況 約195億6,901万円(6,860件)
- ▶いわての学び希望基金受付状況 約68億6,918万円(13,608件)

※被災した子どもたちが勉強やスポーツ等に励めるよう「くらし」「まなび」の支援に使われます。

ビジュアル豊富な【いわて復興だより [Web](#)】もご覧ください!!

<http://iwate-fukkoudayori.com>

いわて復興だより 第69号 平成26年8月15日号 企画・発行: 岩手県復興局復興推進課 ☎019-629-6925

いわて復興だよりバックナンバーは

[いわて復興だより](#)

[検索](#)

編集・印刷: シナプス